



品質は語る……

白松が モナカ本舗

漱石羊羹

漱石の好んだピーナッツと紅茶。
二つの味を漱石の好物だった羊羹に。

数量
限定

販売価格：1,450円

販売場所：三越、藤崎、エスパル、
仙台駅おみやげ処 1号 2号店、一部
直営店(駅前店・一番町店・中央店・
晩翠通店・大学病院前店)

紅茶

ピーナッツ
落花生

「さくら餅」



数量
限定

1 個 160円

※表示価格は消費税込みです。直営店にてご用命をお待ち申し上げます。

漱石生誕150年 仙台と夏目漱石と土井晩翠

戦火が激しくなった昭和19年、明治の文豪夏目漱石（1867～1916）の貴重な蔵書や日記、手帳など約3,000点が、東京の「漱石山房」から仙台の東北大学に移されました。これらの資料は「漱石文庫」と名付けられ、漱石研究に役立てられています。生誕150年の今年、東北大学附属図書館と白松がモナカ本舗ではこれを記念し漱石に関わるコラムを連載します。

漱石、大学後輩の晩翠と出会うの巻

漱石センセイを巡る物語 —その②—

仙台でもっとも知られている文人といえば、土井晩翠(どいばんすい)ではないでしょうか。『荒城の月』の作詞者として有名ですが、晩翠草堂や晩翠通りの名称でおなじみですね。

仙台生まれの土井晩翠が夏目漱石と出会ったのは、第二高等学校の学生だった明治27(1894)年の夏。4歳年上の漱石が、松島旅行の途上、菖蒲田海水浴場のホテルを訪れた時だったといいます。その後、東京帝国大学英文学科に進学した晩翠は、同じ英文学科の大学院生だった漱石の下宿を訪ねたりもしています。

漱石は、松山や熊本で教員を務めた後、明治33(1900)年にイギリスに留学。晩翠は明治32年に詩集『天地有情』を出版し、詩人として一躍有名になりました。『荒城の月』の作詞もこの頃でした。明治34年には、第二高等学校教授だった晩翠も職を辞し、ヨーロッパ留学に旅立ちます。

ドイツ、フランス、イタリアと旅し、イギリスで漱石と再会。ヴィクトリア駅で漱石の出迎えを受け、ロンドンの下宿を訪ねています。10日ほど、神経衰弱で参っていた漱石の世話をしたようです。

漱石は明治36年、晩翠も37年に相次いで帰国。漱石は明治38(1905)年1月、処女作『吾輩は猫である』を発表します。晩翠はすでに詩人として名をはせていましたから、文人としては漱石が後輩であったわけですね。

この年2月、晩翠宛てに自画像(漱石羊羹のパッケージ)入りの葉書を送り、次のように述べています。「君は僕の気焔に驚くというが、僕は君の健筆に驚いている。この頃の文芸の雑誌に、君の詩が載っていないことはない」。

共に英文学を志し、大学や異国で、同じ時間を過ごした二人は、今度は文人として日本で会いまみえたのです。ロンドンでの再会が、漱石を文人に導いたのではないかと、想像を働かせてしまいますね。

土井林吉 晩翠宛 明治38年(1905)2月2日付



土井晩翠
【明治4年(1871)
～昭和27年(1952)】

◀ 漱石が土井晩翠に送った自画像入り葉書(東北大学漱石文庫所蔵)
君は僕の気焔に驚くと云ふが、僕は君の健筆に驚ろいて居る。此頃の文藝の雑誌に、君の詩が載って居ない事はない。何しろ大にやり玉へ。筆硯万歳、可賀可賀候。
昨夜は雪、僕の前の家から火事が出て夜の間に焼けて仕舞った。今朝起きて始めて知った。雪中の火事は詩題になると思ふ。それを知らずに寝て居るのも詩になると思ふ。
自分の肖像をかいたらこんなものが出来た。何だか影が薄い肺病患者の様だ。君が僕を鼓舞してくれるから、今にもっと肥った所をかいて御目にかけろ。現在の顔は此位だ。

その後、漱石は『坊っちゃん』『草枕』『三四郎』など、今も読み継がれる小説を次々に世に問いますが、大正5(1916)年に49歳で世を去ってしまいます。一方、晩翠は、第二高等学校や東北大学で教鞭をとり、多くの若者を育てつつ、歌集やホメロスの訳詩集などで文学界に大きな足跡を残し、昭和27(1952)年に仙台で81年の生涯を閉じました。

今、土井晩翠の旧蔵書は晩翠文庫として、漱石文庫とともに、東北大学附属図書館に収蔵されています。二人がはじめて出会ってから百余年の時をへだてて、二人の魂はこの東北大学の図書館で再びめぐり合っているという気がします。

このような文化的な遺産を守り続けるのも、私たち図書館員の大切な仕事なのです。
【文：米澤誠（東北大学附属図書館）】

夏目漱石
【慶応3年(1867)
～大正5年(1916)】

※東北大学附属図書館



【晩翠文庫】昭和40年(1965)～東北大学の晩翠文庫は、仙台出身の詩人・英文学者である土井晩翠(明治4年(1871)～昭和27年(1952))の旧蔵書です。晩翠は昭和20年(1945)の仙台空襲で蔵書の約8割を失いました。晩翠文庫は、その際に焼け残ったものと、その後購入された書籍約2,624冊からなるコレクションで、英文学、独文学、西洋思想、漢文学、仏教書、自著など多岐にわたります。中には、晩翠自身による書き入れのあるもの、夏目漱石やアインシュタインからの書簡も含まれています。

昭和40年(1965)に遺族から受け入れ、漱石文庫とともに今に継承しています。

白松がモナカ
白松がヨーカン

本社 仙台市青葉区大町二丁目8番23号 ☎022(222)8940代
☎0120-008-940
<http://www.monaka.jp/>